

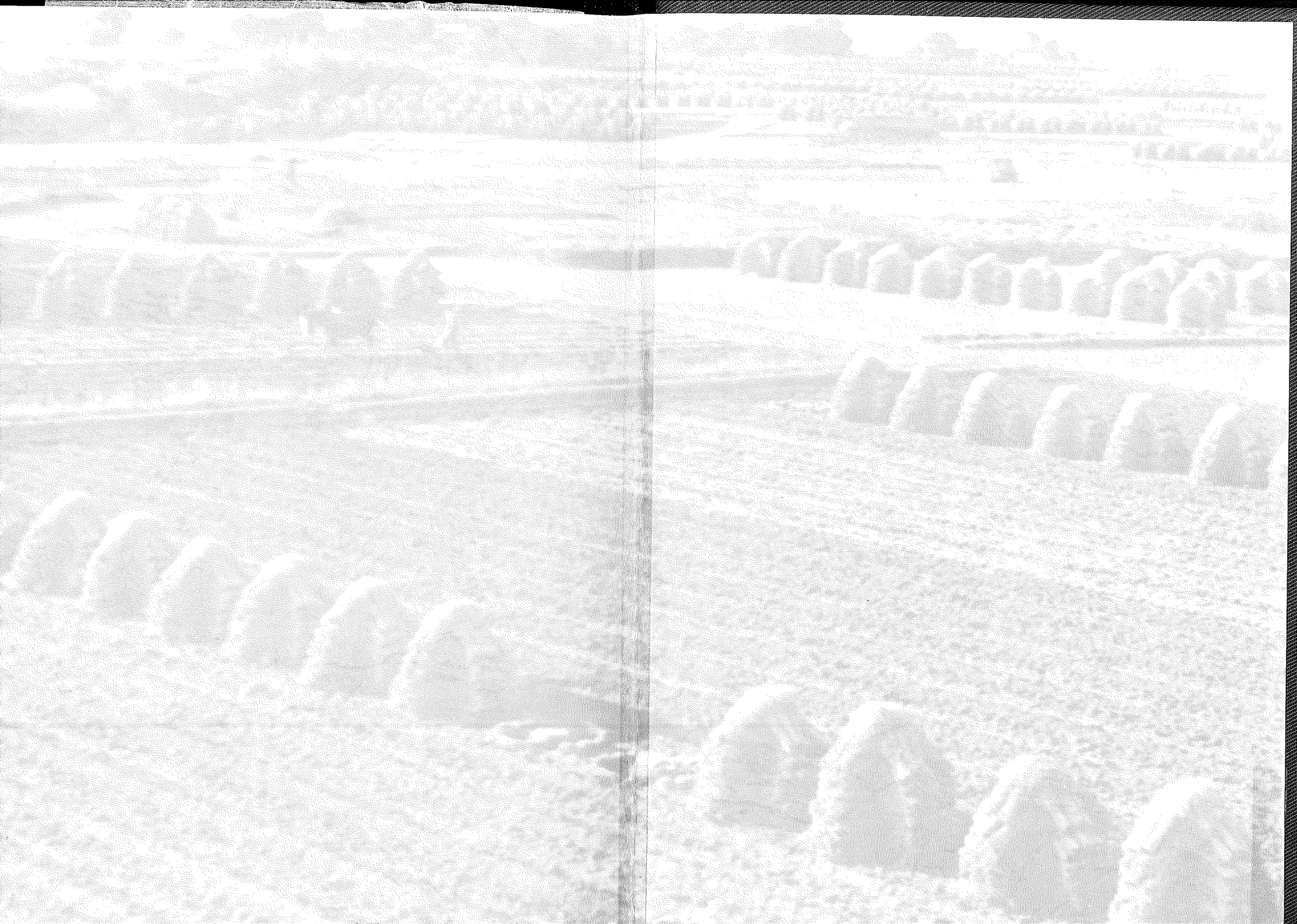
佐賀市史

第四卷

13史誌記

1

情報公開



佐賀市史

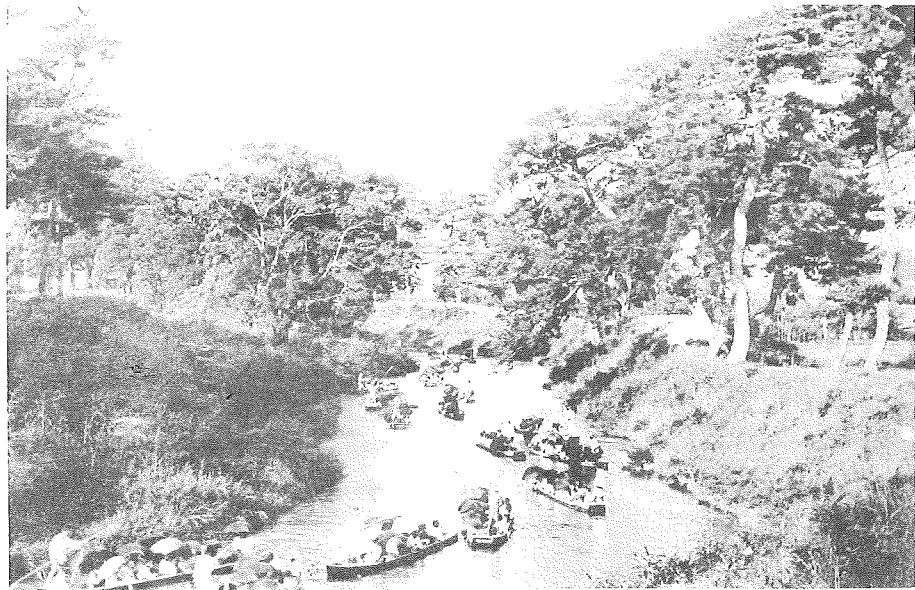
第四卷



神野御茶屋(神野公園)



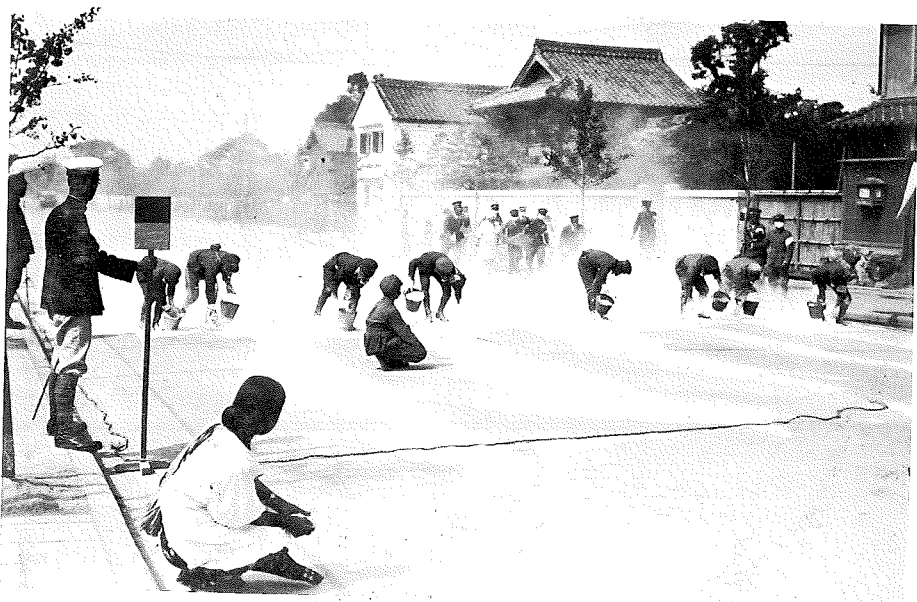
大正期の佐賀市街(新馬場・現松原三丁目付近)



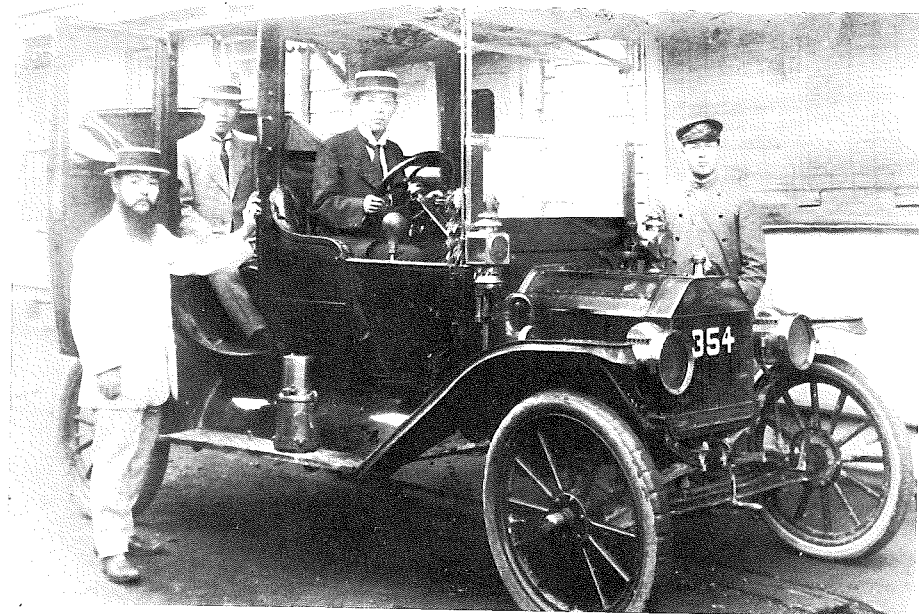
大正期の多布施川(神野御茶屋付近)



昭和6年ごろの佐賀市庁舎とその近傍



戦時中の防空演習(水ヶ江付近貫通道路上)

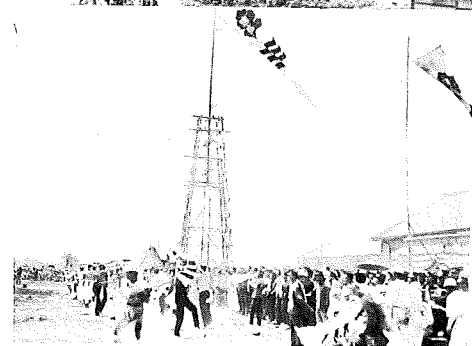


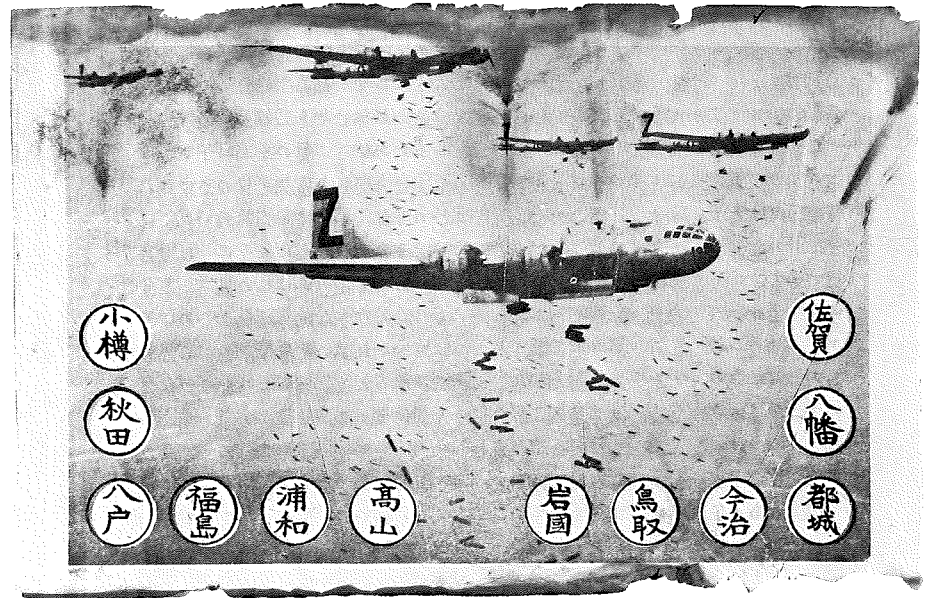
佐賀市街にはじめて登場した乗用自動車(大正4年)



野球熱を盛んにした佐高一福高の
野球対抗戦の様

(大正13年佐高グラウンド)





下に けるんく す街 るれないすつあ らで人人ち是全か部品 施部 ん助命
 さ書豫爆都がてこかて戦んばたふア張りア避す達道る眼部せがをこ設若敷てけをあ
 いいめ撃布少もの て争でも方のメリまメ難かをまかか破るこ製のをく日下た助な
 て注しのく爆裏 平をすつをはり込せりしら傷義分あ壊為の造都米はのさけけた 日本
 あ意ま内と撃に 知止 と解たかん人カて裏つのリリしに勝す市空若内いれよは 國
 るしす必もさ書 をめ よ放いのであの下にけアまま使目るに軍干に ばう自
 都て すこれい 版る いす軍考あ敵さ書にメせせすふの工ははの裏 こと分
 市お 全のるて 復様 新る部へるたはいいくりんけ兵な場軍爆都面 のはや
 かき 部裏かあ しな 日事のて軍方あ ては力御かれ器いが事撃市の じ思親
 らま 若にもる た新 本て壓か部をな ああは承らどを戦あ施しに都 うひ兄
 逃す く書知都 ら指 がす迫ろこ戦た 出さか平や身方 都まののこ爆空をまやすの をま弟
 難か はいれ市 ど導 う者 來うら知敵にて 都まののこ爆空をまやすの よせ友
 しら 若てまで う者 來うら知敵にて 都まののこ爆空をまやすの よせ友
 て裏 干あせな てを 上すあとて引は かんいに落には引軍需 手全

敗戦直前に米軍機が投下した爆撃予告びら(上・表,下・裏)

凡例

- 一 本書は、佐賀市史全五巻のうちの第四巻である。
- 一 この巻で取り扱う内容は、近代編として、大正期と昭和前期いわゆる昭和初年から第二次世界大戦（太平洋戦争）が終結した昭和二十年までを広く叙述した。しかし、市勢の展開については、明治期からのかかわりが深いので一部遡及して叙述した。
- 一 この巻の叙述にあたっては、佐賀市域のみに限らず、地域的に関連する佐賀郡域にも言及した。
- 一 項目の表示は、章・節・項の文字は使用せず、一・(一)・3として区分し、以下区分を必要とする場合は小見出しにした。
- 一 文章はできるだけ平易なものとするため、現代かなづかいにより、漢字も当用漢字を用いた。しかし、固有名詞、歴史的名辞（歴史用語）など特殊なものは原文のままを掲げてふりがなをつけた。
- 一 文中の人名は、文中の引用、参照した編著執筆者名を含めて敬称を省略した。
- 一 一般に数の表記は、日本数字を並べて表わしたが、特殊なものには十・百・千等の単位語を入れた。
- 一 年紀の表現は、日本年号を用い、必要に応じてその下に（ ）をもって西暦年を付記した。
- 一 文中に引用する資料のうち、文書・記録類・編さん物などは『』で示し、内容及ぶ場合は、「」

書き、または改行して活字を一ポイント小さくした。

一 町村街区等地域名は、その当時の呼称を原則としたが、場合によっては（ ）をもって現在の呼称を示した。

二 注書は、文書等または語句の右下に○に包んで表わし、節に相当する区分ごとに資料・参考文献を掲げた。

三 図表は、節ごとに通し番号を付した。挿絵写真は番号を省略した。

四 年表は、この巻に該当する分野を巻末に収録した。

佐賀市史(第四卷・近大正・昭和前期編)

題字 佐賀市長 宮田 虎雄

近代

概説

一 市勢の展開	一
(一) 市政機関と市議会	七
1 執行機関	七
。歴代市長	
。歴代助役	
。歴代収入役	
2 市議会	一四
。市会解散事件	
。市制の改正	
。市議会議員	
。市議会の正副議長	
3 参事会	三七
(二) 大正期の世相と佐賀市	四三
1 文化の進展	四三
2 神野村の合併	五三
(三) 区長と区長会	六六

1 区 長…………… 一六

2 区 長 会…………… 一六

(四) 公営事業…………… 一七

1 市の公営事業…………… 一七

 。市営住宅の建築 。職業紹介所の開設 。常設市場の創設

 。市営バスの開業 。市営ガス事業の開始

2 水道事業…………… 一七

(五) 昭和前期の世相と佐賀市…………… 一八

1 戦時色の強化…………… 一八

2 地方制度の改正…………… 一〇三

3 市庁舎の変遷…………… 一〇八

(六) 普通選挙と市議会…………… 一一六

1 普通選挙運動のあらまし…………… 一一六

2 普通選挙…………… 一一六

二 大正期の産業と経済…………… 一二四

(一) 大正初期から中期の経済変化…………… 一二四

1 経済変化の様相…………… 一二四

2 綿織物業の様相…………… 一三〇

3 機械金属・鋳物業の状況…………… 一三三

4 セメント製造業…………… 一三七

(二) 佐賀紡績の設立過程…………… 一四〇

(三) 金融機関の様相…………… 一五五

1 古賀銀行…………… 一五五

2 栄 銀 行…………… 一五九

3 佐賀百六銀行…………… 一六一

4 佐賀農工銀行…………… 一六三

5 佐賀貯蓄銀行…………… 一六五

6 肥前貯蓄銀行…………… 一六九

7 地所株式会社…………… 一六九

(四) 地域財閥の発展…………… 一七一

1 深川汽船株式会社…………… 一七五

2 株式会社深川造船所…………… 一七五

3 主要実業家の地域比重…………… 一七八

(五) 第一次世界大戦の終結と佐賀市経済…………… 一八三

1	紡績、電気、海運部門の様相	一八三
2	金融部門の状況	一九四
3	工場規模の概況	一九七
(六)	大正後期から昭和初期の経済変動	二〇三
1	経済変動の概況	二〇三
2	大正九年戦後恐慌の様相	二〇六
3	諸産業・金融部門の様相	二一六
4	主要企業の経営悪化	三四
	。佐賀紡績の休業	
	。深川家系企業の経営不振	
	。日本電機鉄工の経営悪化	
	。大正十四年の様相	
5	主要銀行の倒産	二四二
	。神埼実業銀行の倒産	
	。古賀銀行の休業	
6	金融恐慌下の佐賀地域経済	二四八
7	古賀銀行の解散	二五八
三	社会問題と社会事業	二六九
(一)	佐賀地域の米騒動と炭坑争議	二六九
1	米価騰貴と米騒動	二六九

2	米安売りと救済対策	二八三
3	佐賀郡内での救済対策	三〇〇
4	炭坑争議	三〇六
(二)	労働問題と社会事業	三二〇
1	労働問題と労働争議	三二〇
2	社会事業活動の展開	三三〇
(三)	戸数・人口・就業構造の変化	三三五
四	佐賀農業の発展	三三五
(一)	大正前期農業の苦闘	三三五
1	農業生産力の停滞	三三五
2	機械灌漑の経過	三四六
3	晩稲一期作の全面的成立	三五八
(二)	佐賀段階の成立	三六七
1	集約技術の前進	三六七
2	年雇経営からの脱却	三六一
3	「佐賀段階」の形成	三六六
(三)	農業恐慌と農村更生・農業団体	三九四

1 昭和恐慌と農家経済……………三九五

2 農村更生など救農対策……………三九九

3 自作農創設と地主制の後退……………四〇四

4 農業団体の再編成……………四一

(四) 戦時体制下の農業……………四三

1 米作諸条件の荒廃……………四三

。米作生産力の低落……………

。農業労働力の不足……………

2 戦時下の農村と農家……………四七

(付) 有明海の水産業……………四四

1 概観……………四四

2 沿岸漁業……………四六

3 朝鮮近海出漁……………四五

4 養殖漁業……………四七

5 水産物の流通……………四一

。流通圏の拡大……………

。加工製造の発達……………

五 昭和前期の産業と経済……………四六

(一) 世界恐慌から準戦時経済へ……………四八

1 佐賀地域の経済変動……………四六

2 佐賀地域の不況……………四九

3 人口……………四八

(二) 準戦時体制下の経済状況……………四七

1 昭和七、八年の状況……………四七

2 昭和九、十年の状況……………四九

3 昭和十一年の状況……………五〇

(三) 戦時体制下の経済状況……………五一

1 昭和十二、十三年の状況……………五一

2 統制の強化……………五三

3 昭和十四、十五年の状況……………五元

4 昭和十六年から十八年の状況……………五〇

5 昭和十九、二十年の状況……………四六

(四) 道路と交通機関……………五五

1 東西貫通道路と主要市道の開通……………五五

2 軌道……………五二

3 国鉄佐賀線の開通……………五七

六 市民生活の変遷

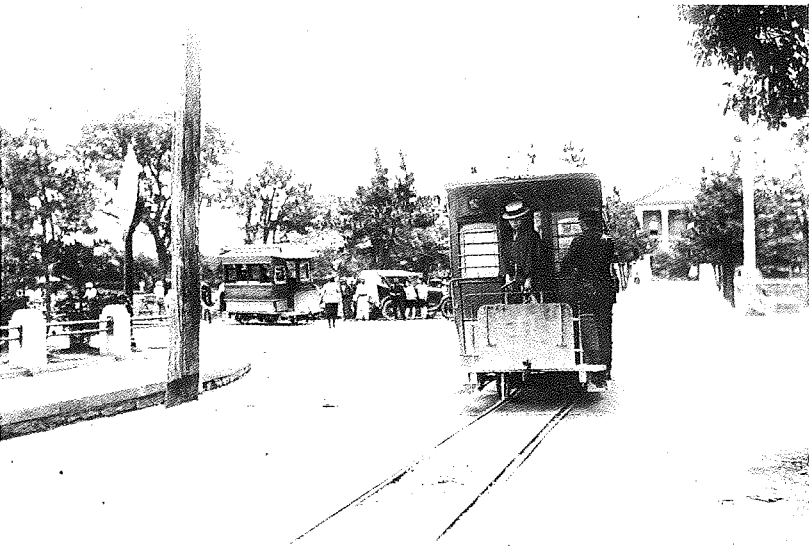
4 市営バス発足の経緯	五九
(一) 時代の概観	五七
(二) 交通・情報機関の発達	五八
1 人力車と自転車	五八
2 自動車とバス・タクシー	五九
3 熊本放送局の開局	五八
4 新聞の動向	六〇
(三) 娯楽とスポーツ	六〇
1 祭りと年中行事	六〇
2 娯楽施設の発達	六七
3 夜の世界	六五
4 スポーツの発達	六〇
(四) こどもの生活	六五
1 学校とこども	六五
2 こどもの遊び	六四
3 お手伝いと奉公	六五〇

七 教育と文化

(一) 教育制度の拡充整備	六五
1 大正・昭和前期の教育事情	六五
2 佐賀県の教育方針	六四
3 佐賀市の教育事情	六七一
4 佐賀高等学校の創設	六九三
5 佐賀商船学校廃校問題	七〇三
(二) 新教育の普及と郷土教育運動	七〇
1 新教育の普及	七〇
2 郷土教育運動	七二〇
(三) 教育活動の展開	七三三
1 佐賀育英会	七三三
2 教育会活動	七四一
3 佐賀県学生大会	七四六
(四) 郷土の文化活動	七四九
1 文学活動	七四九
2 美術芸術活動	七五五

近代

大正・昭和前期



県庁前を走る馬鉄

近代 大正・昭和前期

年	表	八四四
編集後記		
3	葉隠と史談会の活動	七五九
(四)	戦時下の教育	七六六
1	戦時期の教育事情	七六六
2	佐賀市の教育事情	七五五
八	戦時中の市民生活	七九九
(一)	戦時統制の強化	七九九
(二)	市財政の戦時的性格	八六六
1	財政規模の膨脹	八六六
2	歳入の分析	八三〇
3	歳出の分析	八三五
(三)	破局に向かう市民生活	八三三
(四)	市民からの戦争決算報告書	八四八
1	「銃後」の生活	八四八
2	空襲の体験	八六七
3	敗戦	八六一